

# 旅するチョウ アサギマダラ

アサギマダラは旅をするチョウです。

1980年ごろから始められたマーキングという調査方法によって、

春は南から北へ、秋には北から南へ、

まるでツバメのように移動することがわかってきました。

それでも、まだまだわからないことが、たくさんあります。

どこを飛んでいくの？ どの国まで飛んでいくの？ 旅の目的は？

移動先で何を食べているの？ などなど・・・。

これらのなぞ解きに、あなたも参加しませんか？

## ●アサギマダラに国境はありません！

(移動の例)



2000年から2017年に、国境をこえて確認されたのは、北上6例、南下52例あります。国別では、台湾53例、中国4例、韓国1例です。今後、マーキング参加者がふえると、さらに多くなるでしょう。

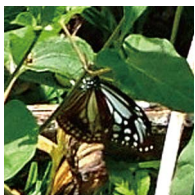
### (春の北上例)

- ① 台湾陽明山→滋賀県大津市  
1,790km 39日間
- ② 長崎県上五島町→韓国江原道  
528km 31日間

### (秋の南下例)

- ③ 福島県北塩原郡→台湾澎湖島  
2,513km 88日間(これまでの最長移動距離)
- ④ 石川県輪島市→中国浙江省  
1,644km 69日間
- ⑤ 和歌山県日高町→高知県香美市→中国香港  
2,428km 82日間

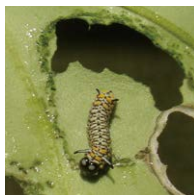
## アサギマダラの一生



① 産卵中のメス  
移動した先々にあるガガイモの仲間に産みます



② 卵  
本当の大きさは1.5mm くらい



③ 食事中的の2齢幼虫  
若齢期だけのふしぎな食べ方



④ 終齢幼虫  
黒と黄のまだらもようは警告色。そのひみつは食草に



⑤ さなぎ  
銀色を散らした緑色は保護色？



オスにだけある黒い紋

⑥ 吸蜜中のオス  
アサギマダラの姿は繊細で美しい



ヒヨドリバナに集まるアサギマダラ

## アサギマダラが飛来する季節と植物

アサギマダラは、北は北海道から南は沖縄まで全国で見られますが、ツバメのように『<sup>わた</sup>渡り』をするので、見られる季節は地域によってちがいます。寒い季節は暖かい地方に、暑い季節は涼しい地方や高い山に移動するのです。もうひとつ重要なのは、アサギマダラは特別に好む植物があるということです。これらに注意して探せば、たくさんのアサギマダラに出会えます。

季節	よく見られる地域	よく飛来する植物（主に花）
11月～4月	南西諸島	センダングサ類、スイゼンジナ、モンパノキ
4月～6月	九州、四国、本州西部の海岸や山地	スナビキソウ、ウツギ、オオルリソウ、ナルトサワギク
7月～9月	全国の標高1,000m以上の高原	ヨツバヒヨドリ、ノリウツギ
9月～11月	全国の山地・平野部・海岸 (秋が深まるにつれて、南へ移動していきます)	フジバカマなどのヒヨドリバナ類、アザミ類、ツワブキ、オタカラコウ、コシアブラ、ミズヒマワリ



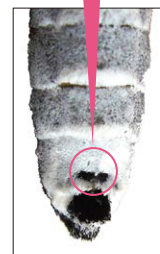
## マーキングに“チョウ戦”しよう!

- ① 油性のサインペン(極細)で標識(マーキング)します。  
(左の写真と下のノートを参考に)
- ② ノートにも記録しておきます。

### 【ノートの記録内容】

- ・**鮮度**は3段階(新鮮(N)・中(M)・古い(O))で書く。
- ・**交尾痕**の有無を書く。  
(交尾痕は♀の尾端<sup>ひたん</sup>にのみある。写真のピンクの○部分)
- ・**標識のあるアサギマダラ**を捕獲または撮影した場合は、アサギマダラの会事務局(このページの下部参照)までご連絡ください。(現地標識があるものは、記録だけ取って放してください)

どうびこん  
交尾痕



場所 愛知県田原市伊良湖岬		天候 晴れ		気温21～25℃		標識 2012年10月15日・標識者: 金沢 至	
標識者・番号	場所・日付	雌雄	交尾痕	鮮度	時間	地点名	行動・訪花植物名など
IKA 061	IRG 10/15	♂		N	10:53	遊歩道	ヒヨドリバナ類に訪花中



### 移動情報の入手・発信・照会について 〈次の連絡先までEメールでお問い合わせください〉

移動情報やマーキングリスト(asagi)への参加方法などをご案内します。

アサギマダラの会事務局(村上 豊) Eメール: jym-0644@zeus.eonet.ne.jp

監 修: アサギマダラの会 編集・発行: BV アサギマダラの会

写真提供: 大原賢二、小畑博司、金澤 至、金田 忍、田口 誠、藤野適宏、吉本 武

〈2013年9月初版 / 2018年4月第2版〉